

◎第3回理事会 (35.8.30) 出席者：沼田会長，富樫，滝山両副会長，阿部，小倉，岡本，川勝，小西，佐藤，田中，林，八十島，末森専務の各理事。議事：(1)「風のシンポジウム連絡協議会」設置案については次回決定のこと。(2) 関係機関の担当理事変更については日本工学会・林理事，日本ドクメンテーション協会・八十島理事とし両学会に届ける。(3)「毎日工業技術賞」および「大河内賞」の候補推薦については，おのおの期日までに各理事考慮しておくこと。(4) 特別員の規則の一部改正案について常議員会に郵便によりはかること。(5) 土木会館委員会構成案について，海外連絡委員会構成案についておのおの審議決定し，委員長の了承を得て委嘱することとなった。(6) 各委員会委員の交代および追加委嘱について。a) 会誌編集委員会 堺 毅委員を副委員長に，b) 文献調査委員会に特別委員を追加すること，中村 宏氏(電力技術研究所)，椎貝博美氏(東京大学大学院)。c) プレストレスト コンクリート委員会に大西清治氏(オリエンタルコンクリートKK技術部)を追加。d) 耐震工学委員会委員交代・沼田委員長は那須委員と交代，比田委員は佐藤 肇氏と交代，篠原 清委員は野田和郎氏と交代，伊藤委員は高畑政信氏と交代委嘱のこと。(7) 7月中の会員入退会を承認。報告事項：(1) 7月中の会計報告，(2) 7月中の刊行物申込一覧。(3) 8月1日～8月29日間の各種委員会報告。(4) その他。

◎各種委員会

1. 第3回文献調査委員会 (35.8.5) 出席者：久野委員長，今岡，徳田，高野，鮮子，大西，山村(代駒田)，佐藤，石井(代)，丹の各委員，日野幹事。議事：1) ソ連文献の題目登載について。2) 題目カードのパンチ・カード・システムへの切りかえについて。3) 外国の諸研究所との文献交換。4) 題目カードの外国固有名詞の記入方法。5) 担当雑誌の変更。6) 雑誌担当委員の追加について。

中村 宏 電研，第二部水理研究室 (29年東大)
椎貝 博美 東京大学大学院 (34年東大)

2. 第3回会誌編集小委員会 (35.8.10) 出席者：斎藤委員長，榎野(代大河原)，相良両委員，杓掛幹事，共栄通信社 宗稼，渡辺の両氏。議事：1) 広告改善の件につき広告業者と打合せを行なった。2) 45巻第8号口絵写真の選定。45巻8号ニュースの選定。4) その他。

3. 第3回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会特別委員会 (35.8.10) 出席者：猪股，松野，小寺，杓掛，清野，宮崎(昭)，野口の各委員，

井上，船越の両幹事。議事：1) 野口委員より今まで調査したクリープ測定に関するまとめにつき経過報告。2) 小寺委員より同委員担当の許容応力度につき資料提出説明，各条審議。3) 清野委員よりせん断応力につき各条説明，審議した。4) 次回小委員会にオリエンタルコンクリートの大西清治氏を新委員として依頼すること。

4. 第6回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会 (35.8.15) 出席者：国分委員長，菅原，山田，猪股，三浦，川口，清野，小寺，白木，樋口，松野(代柿崎)，今村，中村，杓掛，宮崎(昭)，小田，堀口，板垣(代猪股)，百島の各委員，船越幹事，大西氏。議事：1) 野口委員より前回(8.10)の特別委員会経過報告。2) 委員として新たに大西清治氏(オリエンタルコンクリートKK技術部技術課)を追加。3) 原案 47条～54条逐条審議。4) 菅原委員渡米のため，同委員起案の第二原案4, 5, 6, 14, 15, 16の各原案を審議。5) 次回委員会を8月29日(月)14時からと決定。

5. 第7回災害対策幹事会 (35.8.17) 出席者：三木，君島，丸山，磯田，箕輪(代)，宮下，岡崎，三浦の各幹事，末森専務理事。議事：1) 研究テーマとしてA地域を選定するに当って，すでに工事を着手している所から資料を収集しても，各省の資料は一貫したものでないから，これをまとめることは非常にむずかしい仕事と思われる。2) しかし一応資料を集め対策を研究して，次の地域の対策に役立つものを見つけることは一策である。3) この意味で「土木学的に見た伊勢湾地域における高潮対策の研究」というテーマによって，建設，運輸，農林3省の幹事により，記録の収集とその対策の資料を出してもらったこととなった。4) 次回は8月25日小幹事会によって資料の収集方法について御協議願うこととした。

6. 第5回土木技術者資格研究委員会 (35.8.19) 出席者：鈴木委員長，石橋(代)，柿野，久保，佐藤，高畑，武井(代)，富樫，西嶋，西松，比企，平山，増山の各委員，樽井，久我の両幹事，末森専務理事。議事：前回懸案となった 1) A.S.C.E その他への問合わせ事項。2) 技術士法および建築基準法を対象とするなるべく具体的な対策。3) 「建築物に係る」の意味の再検討など，おのおのの問題について論議されたが結論に至らず，結局次の課題を次回までに検討しておくこととなった。

1. アメリカに出す質問の内容を作り紹介先を検討すること(紹介先については連絡ができれば在日の Engineer にもきいてみること)。
2. 建築法の条文(「係る」の意味)について，建設省文書課の意見をまずきいておくこと(その他建築関係者の意見をもきく方がよいかも知れない)。

3. 土木工法の原案は従来作成した案にもとづいてよいかどうかを検討すること。
4. 各委員はすべての考えを結論に近づけるような方針をとること。

7. 第3回会誌編集委員会 (35.8.23) 出席者：斎藤委員長、後藤(東北)、増田(中部)、嶋、渡部、林(四)、米沢、足立、堺、梶野(代大河原)、山本、相良、浅井、西田、吉田、谷田沢、佐藤、林(茂)の各委員、杵掛幹事、末森専務理事。議事：1) 投稿原稿状況。2) 審査中原稿の審査報告。3) 新規受付原稿審査委員の決定。4) 依頼原稿リストにより新規依頼先の決定。5) 副委員長に堺委員を決定。6) 会誌 10 号掲載原稿を次のとおり予定。

坂野重信：土木技術者の海外進出の問題点——中近東を中心として——、水野俊一・笠原 正：骨材粒度の一図式表示方法、佐藤一彦：Wild N3 レベルの測定誤差について、田島正彦・元永正紀：綾北ダム施工に関する二、三の問題点、田中 清：洪水伝説雑考、講座・元岡 達：電子計算機の構造概要、その他。

8. 第40回耐震工学委員会 (35.8.24) 出席者：岡本、久保、小西(代畑中)、比田(代森本)、神谷、伊藤(代高畑)、畠山、那須の各委員。議事：1) WECCの後始末について；Proceeding は論文、質問、行事の3冊に分けて出版し、5000 円程度となること。刊行費は同会議の経費の残余金でまかなうこと。2) Organization について；International Organization に対して国内の Organization を作ること、その組織、経費についても研究中であること。3) 英文地震工学について；8月9日出版関係の委員会、学協会の代表者にお集り願い会長からお礼の挨拶をしたこと。再版に当ってはミクスプリントを申出してもらうよう依頼すること。販路について研究すること。4) 第4回地震工学研究発表会次第；

日 程：11月7日(月)、8日(火)
場 所 土木学会会議室
課 題 別掲(会告参照のこと)

- 5) トレーニング・センターについて(久保委員)；7月7日の打合せにおいて土木は来年2月6日からハーデイ・バラックスで開講すること。講師は電研、土研、水道局、運研に依頼したこと。特別講義は

- ①地震の被害(堀江)
- ②震動模型実験(岡本)
- ③土木の被害(沼田)
- ④鉄道について(友永)
- ⑤コンクリートについて(国分)
- ⑥橋梁について(小西、平井)の諸氏を予定していること

- 6) 委員の交代；

沼田委員長……………那須委員
比田委員 ……………佐藤 肇氏
篠原委員 ……………野田和郎氏
佐藤委員 ……………高畑政信氏

- 7) 次回第41回は9月20日17.30時と決定。

9. 第8回災害対策小幹事会 (35.8.25) 出席者：三木、丸山、岡崎の常任幹事、高須(農林)、宮下(建設)の両幹事、末森専務理事。議事：宮下幹事から提出された「土木工学的にみた伊勢湾地域における高潮対策の研究」の研究項目案について審議し、各省の調査資料について分担をきめた。

1. 高潮対策事業の計画策定に当り、高潮対策協議会において論議された事項のとりまとめ——主として計画高について——とその検討(岡崎幹事)
2. 各省で決定された工法についての考察——災害状況、原因とその対策
 - ①越波に対する考え方
 - ②経済効果をどの程度考慮しているか
 - ③地震、沈下、波力、施工面についての維持修繕と増補の検討
 - ④新工法について
 - ⑤設計の特色(運輸、建設、農林)
3. 伊勢湾周辺において対策事業が完成してのち、または工事中に起ると考えられる最悪の事態の想定とその対策(運輸、建設、農林)
4. 干潮河川の考え方について(運輸、建設、農林)
5. 名古屋港大防波堤と海岸堤防について(運輸、建設、農林)
6. 汀地帯における産業立地と高潮対策事業について(運輸、建設、農林)

①道路	⑥都市計画
②鉄道	⑦工場、住宅
③上下水道	⑧農地、埋立計画
④電力	⑨土木施設
⑤港湾	

以上について分担調査するか必要に応じ、委託調査、研究(研究機関、出先、特定委員)、実地調査などを行なう。

10. 第7回プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会 (35.8.29) 出席者：国分委員長、山田(代塚山)、三浦、川口、清野、小寺、白木、松野、今村、中村、上前、宮崎(昭)、小田、野口、百島、大西の各委員、井上、船越両幹事。議事：1) 第1原案55条56条審議するも、原案者欠席のため保留とし、43条クリープおよび乾燥収縮について今までに集めた資料につき野口委員が説明、第2次原案を配布し、種々討議をした。2) グラウト基準を作るため標準試験方法をきめるべく最近のうちに特別委員会を設置する。構成としてはPC関係として、樋口、白木、大西、小田、板垣、百島、小寺、松野、上前、杵掛、中村、野口、井上、船越の各氏のほかプレパクト関係として国鉄、建設省、運輸省の工事関係の方を各1名、岩崎(東大大学院)氏。日本セメント、小野田セメントより各1名程度と予定するが、一応PC関係の方々のみで発足する。

11. 第2回構造物耐震設計研究委員会 (35.8.31, 東大

生研会議室) 出席者: 岡本副委員長, 横田(代栗林), 金井の各委員, 久保幹事長, 後藤(尚), 白石, 大地, 池田, 小寺, 野沢, 石崎, 宮崎, 橋高, 伊藤(学), 伯野の各幹事。森野(国鉄), 玉野(首都高速), 橋田(国鉄), 成田(土研), 上前(首都高速), 矢坂(首都高速), 大久保(首都高速), 田村(国鉄), 片瀬(国鉄), 他に生研研究員3名の各オブザーバー。議事: 1) 岡本副委員長挨拶。2) 久保幹事長および小寺幹事より今度の振動実験の方法またその結果について説明, 実験室において実験を行なった。3) 今後の研究, 実験方法等につき種々討議を行なった。

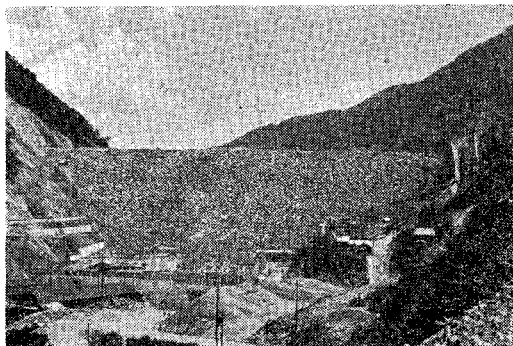
◎その他

1. 有志見学会 (35.8.4~5, 御母衣ダム工事) 土木学会ゴルフ会・土曜会の有志により, 完成近い御母衣ロックフィルダムの見学会が, 参加者26名を得て行なわれた。

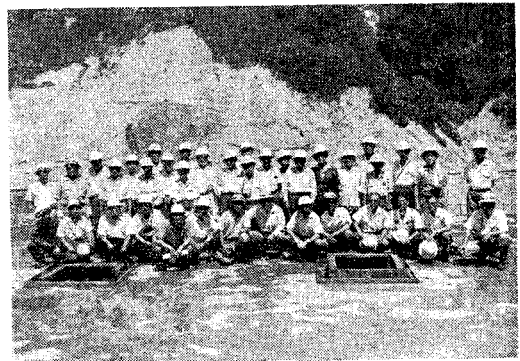
8月4日14時20分岐阜駅前集合, 電発の御厚意によるバスで宿泊地の郡上八幡へ向う。案内嬢の説明に耳を傾けながら関市を右手に見て美濃市より越美南線に沿って北上, 平和な山村にも長良川ぞいに至るところ伊勢湾台風の傷跡が見られる。17時すぎ浅尾所長, 山品庶務課長, 高田間組取締役などの出迎えをうけて宿舎の三富久旅館に入り一汗流して電発主催の懇親会にのぞんだ。伊藤前建設所長の歓迎の辞に, 金子源一郎氏, 沼田会長よりそれぞれ謝辞を述べ, とりたての鮎と今やたけなわといわれる郡上踊りのもてなしに, 一同大いに歓をつくし, 広間に用意された, 映画「御母衣ダム・第一部」を鑑賞, 翌日の見学の予備知識をうることができた。

翌5日もすばらしい快晴, 8時バスで宿舎を出発, 伊丹土木課長代理の説明をうけながら水没予定区域を通過し10時30分現場着, 建設事務所で浅尾所長, 福井土木課長の説明があり質疑が続いた。合掌造りで知られる岐阜県大野郡白川村の庄川水系に高さ131m, 頂長405m, 堤体積795万 m^3 の傾斜土質遮水壁型ロックフィルダムを築き, 有効貯水量3.3億 m^3 を貯水, 最大出力21万5000kWの地下発電所を新設, 年間5.9億kWh, 冬期

上流面より見たダム全景



御母衣ダム見学会記念撮影

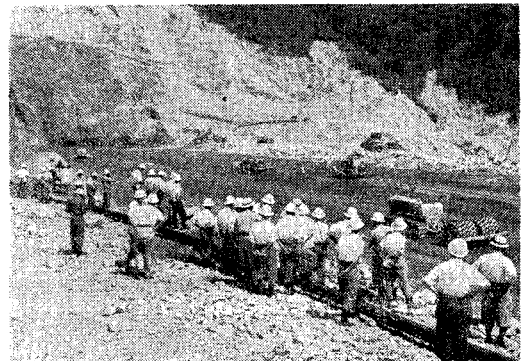


2億kWhの電力をうるとともに下流既設7発電所より2.8億kWhの増加出力量をうる計画とのことである。

発電所名	最大使用水量 (m^3/sec)	有効落差 (m)	最大出力 (kW)	備考	
新設 御母衣	130.0	192.1	215 000		
既設	鳩ヶ谷	57.5	81.5	40 300	
	椿原	70.0	64.4	38 700	
	成出	79.6	53.0	35 000	
	小原	140.4	38.3	45 000	
	祖山	93.9	66.4	54 000	
新設	小牧	138.7	70.0	72 000	
	中野	44.5	17.3	6 440	
増設	鳩ヶ谷	57.5	81.5	40 300	取水口は1期 工事で築造済
	椿原	70.0	64.4	38 700	
	成出	55.4	53.0	25 000	
既設	祖山	41.1	66.4	21 200	"
	赤尾	160.0	16.6	22 100	
未設	田向	142.0	24.4	29 600	
	庄川第1~4	78.2	77.5	49 600	
合計	既設		390.9	291 440	
	新增未設		310.6	441 500	
総合計			701.5	732 940	

説明後, 前沢第一工区長, 佐藤第二工区長など係員の案内によりジープに分乗, 建設中の地下発電所を見る。長さ77m, 巾22.5m, 高さ42.8mのスペースに立軸フランシス型水車2台(容量11万7000kW), 立軸閉鎖風道循環型発電機2台(容量12万5000kVA, 60 ω)を収容するもので現在発電機のすえつけを急いでい

ダム頂部で土質材料の締固めを見る



る。地下発電所をあとにして、いよいよダム サイトへ向う。9月末ダム打設完了, 11月湛水開始を目標に90%以上が完成したダムは最後の仕上げに余念がない。間断なく運搬される土質材料, フィルター材料, ロックなどを待機したブルドーザー, タイヤローラー, シープスフートローラーなどの大型機械でみるみるうちに処理し, 散水をくり返しながらか締めてゆく。まさに建設機械の一大展示場を見る思いである。電発のクラブで昼食をとり再びジープに分乗し福島谷ロック採取場, 秋町土質材料採取場へ向う。昨晚の映画に見られた大発破のあとすさまじい岩山に向かって活躍するパワーショベル, 整然と積み上げられたストックパイルの山など, 工事の物量を改めて感じさせる巨大な野外倉庫である。予定どおり15時全工程の見学を終了, クラブへ引返し, 電発関係者, 嶋原間組常務取締役などの見送りをうけ, それぞれの方向に解散した。

本見学会を終るに当り, 絶大なる御協力を賜わった電源開発KK, 間組などの関係各位に対し, 紙上より心から御礼申上げる次第である。

2. 第2回原子力研究総合発表会開催

標記に関し日本原子力学会の依頼により, 幹事学会引受けと運営委員に藤原良治氏(電源開発)を推薦した。

開催日程: 昭和36年2月15日~18日 4日間
場所: 神田学士会館

第1回運営委員会(35.8.9, 日本原子力研究所)藤原委員出席。

議事 1. 運営委員長に八木栄氏を選定, 2. 開催細目・準備日程・論文選考委員, 予算等の検討。

3. 第7回風のシンポジウム開催企画要項に関する打合せ(35.8.12, 日本建築学会会講室)

1. 日時: 11月4日(金), 5日(土)の2日間, 両日とも9~17時, ただし, 応募題数の状況によっては, 4月1日限りとする。

2. 場所: 日本建築学会会講室 会費 300円

3. 参加学会: 下記10学会(※印本年度幹事学会)
土木学会, 日本火災学会, 日本海洋学会, 日本気象学会, ※日本建築学会, 日本航空学会, 日本地震学会, 日本地理学会, 日本農業気象学会, 日本林学会

4. 発表部門: 総合, 計測, 拡散, 接地, 模型, 建築, 災害, 利用の各理論および応用

5. 発表時間: 1題当たり約15分(講演, 討論をふくむ)

6. 発表申込: 9月末日までに題目, 部門, 発表者, 所属を明記し各所属学会に申込む。

○特別講演: 風とロケット送電線の風圧, 最近の風その他に関し交渉依頼する。

○映画: 「震害」関係映画その他を考慮する。

○懇親会: シンポジウム終了後同会場において開催する

4. 夏期講習会講師打合せ(35.8.24) 出席者: (講師) 星埜, 森, 小林, 齋藤, 片平, 大塚, 武部, 五十嵐(代広川楯吉), 西畑(三木, 平尾, 早川, 欠席)の各講師。(学会側)沼田会長, 末森専務, 各課長。議事: 1. 受

講申込現況報告。2. 講演に関する各事項の打合わせ。

3. 講演集のミスプリントを9月5日までに申出てもらうこと。4. その他。

5. 夏期講習会(35.8.25~27, 虎ノ門共済会館講堂)

「最近の道路問題と高速道路」について講習会を行なったところ全国より569名の参加者を得て盛大であった。

夏期講習会場風景



(第1日)

挨拶 土木学会々長 沼田 政 矩
1) 道路計画上の問題点 東京大学教授 工博 星 埜 和
2) 路床, 路盤の安定処理 東京大学助教授 三木 五三郎
3) 最近の道路舗装 日本道路建設業協会々長 森 豊 吉
4) 道路の機械化施工と将来 建設省大臣官房建設機械課長 小林 元 棟

映画: a) ニュージャーシー ターンバイク(日本舗道KK提供)
b) 阪奈道路 (" ")

(第2日)

6) 高速自動車道路の意義および特性 建設省道路局高速道路課長 工博 齋 藤 義 治
6) 高速道路の計画 日本道路公団名神高速道路部長 片 平 信 貴

7) 高速道路の線形設計について 日本道路公団名神高速道路部第一課 大 塚 勝 美
8) 高速道路の施設 同上 武 部 健 一

9) 自動車の速度と性能 東京大学教授 工博 平 尾 収

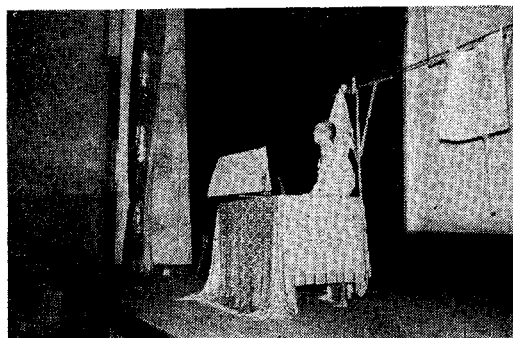
映画: a) ノーチラス号北極横断(アメリカ文化センター提供)
b) 第八の海 (" ")
c) 高速道路 (日本道路公団提供)

10) 名神高速道路の土工および構造物の設計について 日本道路公団名神高速道路部第二課長 早 川 精

11) 首都高速道路について 首都高速道路公団調査課 広 川 楯 吉
12) 欧米各国の都市内自動車道路の建設について 首都高速道路公団理事 西 畑 正 倫

挨拶 土木学会専務理事 末 森 猛 雄

末森専務理事の挨拶



終 講 式

(沼田会長より終了証書をうける中四支部 山内恒雄氏)



受 講 者	1. 業 界	159	
	2. 建 設 省	72	}
	3. 地 方 公 署	22	
	4. 東 京 都	25	
	5. 地 方 庁	133	} 256
	6. 開 発 局	4	
	7. 国 鉄	23	} 32
	8. 私 鉄	9	
	9. 学 校	25	
	10. 住 宅 公 団	5	} 14
	11. 防 衛 庁	4	
	12. 運 輸 省	2	
	13. そ の 他	3	
	計	569 名	

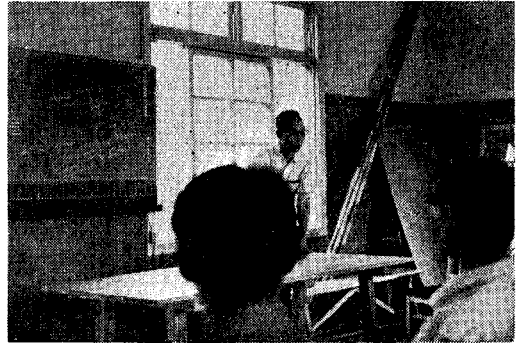
見学会 (第1班)	50 名
(第2班)	131 名

○見学会 第1班 (京葉道路, 土木研究所千葉支所)

午前中の講習会の進行, ならびに終講式の運びが, 大変手ぎわよくいったため, 案じていた見学会の出発も予定どおり, 正 13 時に虎の門共済会館前をスタートすることができた。残暑のひざしは, なおきびしいが, すでに初秋の空に雲の往来がはげしい。一行 50 名, バス一台にほとんど満員の車内は暑気にもめげず, 見学気分旺盛なかなか賑やかである。須田町, 両国橋, 亀戸と 14 号国道を駆けぬけ小松川橋を渡る。間もなく国道より分岐日本道路公団施工の京葉道路の始点, 一の江橋に着く。公団の清水副参事が待ちかまえておられ早速バスに便乗を願い, 走行車上で本道路の概要につき簡単な説明をうける。延長 8886 m, 総巾員 16 m, 総工費 18 億 1500 万円にて, 去る 35 年 5 月 1 日より有料道路として開業した。東京・千葉を結ぶ国道 14 号線のすでに飽和状態の交通量を消化し, 所要間も従来より 20 分短縮可能, 利用度は予想以上で, 通過車両数は 1 日平均 8000 台, 最高 10000 台以上に達し, 当初の予想を裏切り工事費の償却も, 約 15 年に短縮できる見込みとのことである。説明の終るころ車は船橋市海神の終点に達し, 後は一路海岸沿いの国道を快い海風に吹かれながら稲毛海岸に出て, それより左折, 14 時 40 分建設省土木研究所千葉

支所に到着する。この支所は土木研究所のうち, 道路部門に属する研究室が, 元陸軍の連隊跡に移設されたもので, その敷地面積は 35000 余坪, 研究室, 事務室等もほとんど旧営舎を改造したものが多く。その建物面積は 4900 坪におよぶ。

伊吹山道路研究室長の一般説明



早速一同用意された構内食堂に集合, 伊吹山道路研究室長より, 本研究所の概要につき説明をきく。終って冷たいジュースにのどをうるおし一息つく。早速伊吹山室長, 松崎技官の案内により見学に移る。広々とした構内には夏草が生い茂り, その間に点々と各研究室が点在しているので, 案内される方も見学者も汗だくなる。見学順序を追って述べれば以下のとおりである。

1. 舗装研究室

(1) 30 t 試験舗装: 全巾 9 m, 全長 102 m のレール基礎の内に各種構造のコンクリート舗装を施工し, 9 m スパンのレール上を走るラーメン構造のフレームにジャッキをとりつけ 30 t までの静的荷重試験を行なう。パルセーターは荷重試験装置と同じフレームに取りつけられ 60~480 回/min で最大 15 t までのくり返し荷重試験が試験舗装にたいして行なわれる。

(2) テスト・ピット: 全巾 9.5 m, 内巾 6 m, 長さ 70 m, 深さ 3.5 m のコンクリート槽であって, この中に約 700 m³ の路床土と, 約 300 m³ の路盤材料を施工して支持力試験を行なう。

(3) 室内実験室: 土質試験室, アスファルト材料実験室, アスファルト混合物実験室, コンクリート実験室, 恒温実験室, 恒温恒湿室, 低温実験室。

4. 室内試験機: 特色のあるものとしては CVT 試験機 (路盤材料の強度特性の試験), くり返し試験機 (土やアスファルト混合物の供試体の低温時におけるくり返し荷重試験), ニーディング コンパクター, ビームのスタビロメーター, 10 t および 20 t 圧縮曲げ試験機などである。

2. 道路研究室

(1) 道路トンネル換気実験装置: 直線延長 60 m のトンネル模型に, 送風機 50 HP 2 台をつなぎ, 道路トンネルの換気を模型的に実験する装置であって風圧は 150

mm 水銀柱まで出しうる。

3. 土質研究室

(1) 盛土実験装置：軟弱地盤を基礎として盛土したときの基礎および盛土内の応力を測定して、盛土の破壊機構を究明し、その対策工法を研究するため、軟弱地盤を人工的に作り、その上に試験盛土をして、その際の土圧、沈下、側方変位および間げき水圧などを測定する。

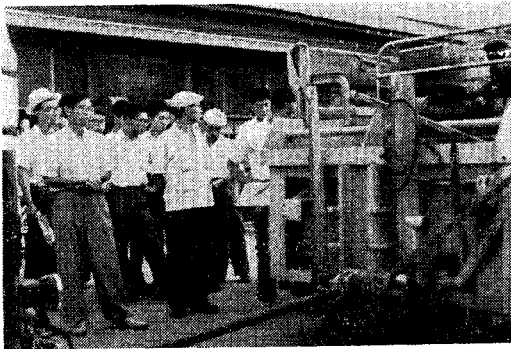
4. 構造研究室

(1) 正弦波振動台：橋梁その他の構造物ならびに基礎地盤などの振動特性を明確なる振動負荷の関係から調べるもので、載荷重量は低負荷で10t、高負荷で6t、起振力は42c/secにて最大80tである。

(2) 衝撃式振動台：衝撃的外力の作用を受けた場合の振動応答を調べるためのものであって、衝撃力は水平にのみ30tは出しうる。しかして載荷重量12tの場合に約2gの加速度を発生せしめることが可能である。

5. 機械研究室

(1) 性能試験車：トラクタその他車両のけん引試験をする目的で製作された車両で、主エンジンを空気圧縮機械研究室ブルドーザーけん引試験車の説明



機に改造して動力制動用に利用している（自重8t）。

(2) 計測車：制動車とともにトラクタなどのけん引試験に使用される車両で、自動かじ取り装置つきフルトレーラ型である。被試験車と制動車を連結し、車内に主要計器類を入れて内部で計測しうるようにし、試験に必要な合図も、車内からマイクを通して行なうことができる。

(3) 交通試験走路：延長約800mのコンクリート舗装2車線、アスファルト1車線計3車線、路肩、中央分離帯をふくめて総巾員15mの試験走路およびクロソイド曲線をふくんだ加速車線よりなっている。これにより時速90km/h以下の追い越し、すれ違いの際の所要巾員、路面摩擦係数の測定、照明方法、交通量および速度測定等の実験を行なう。実験用機械としては、試験車、路面摩擦係数測定用トレーラー、速度分類計、トラフィックカウンターその他所要の計器類を備えている。

6. 橋梁研究室

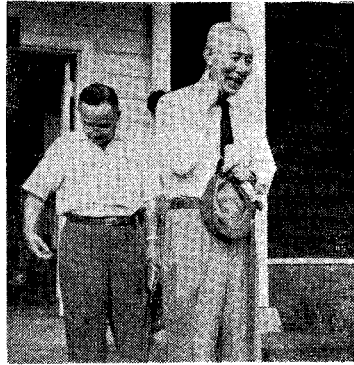
新しい設計理論や設計ができ上がった場合、模型によ

て載荷試験を行なって理論なり設計なりが実際とどれだけ差異があるかを確かめている。ちょうど長野県1号国道の牟礼橋（延長35.208m、上路式曲線合成桁橋）の1/3アクリライト模型による実験状況を見学できた。

以上のごとく、諸研究施設を各担当官の懇切なる説明により多大の成果をおさめて17時に見学を終る。

研究所を辞するに際し小野諒兄名譽員が一同を代表し

小野名譽員の謝辞



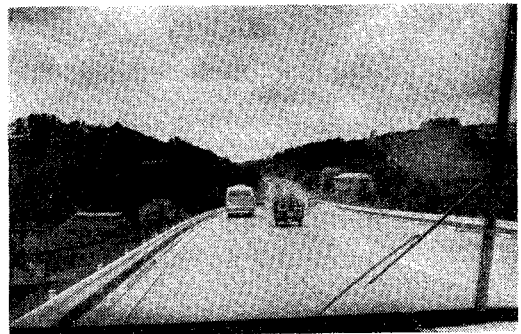
て伊吹山室長に謝辞を述べ一路帰京を急ぐ。途中京葉道路においては時速75kmをもって走行し新しい自動車専用道路の実態を玩味しつつネオン輝く東京駅前に帰着したのは18時10

分であった。今回の見学に際し説明の労を取られた日本道路公団京葉工事々務所、建設省土木研究所千葉支所の各担当官に対し厚く御礼申上げる次第である。

○見学会 第2班(横浜新道・湘南道路・国鉄根岸線)

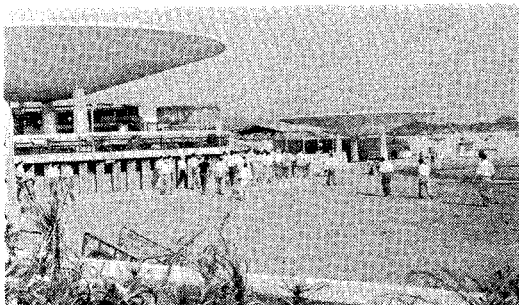
13時、3台のバスに分乗して共済会館前を出発、第二京浜国道を通り、横浜市内の三ツ沢公園を抜け横浜新道へ……保土ヶ谷トンネル前で道路公団の係員の方々の同乗をえて、説明をうけながら坦々たるハイウエーをとばす。一部横断歩道が気にかかるが車道との交差は全部立体交差で、線形にも十分な考慮を払った公団御自慢の道路である。参加者から一せいに感嘆の声があがり、しきりにカメラのシャッターが鳴る。料金所の手前で下車、横浜新道管理事務所 松尾所長ならびに、湘南道路工事々務所 坂野工務主任より工事概要の説明をうけた。横浜市内における一級国道一号線と市内交通上の混雑を防ぐために設けられたバイパスで延長11889m（既設3140m）巾員15~16m、32年4月より昨年10月末開通まで17

横 浜 新 道

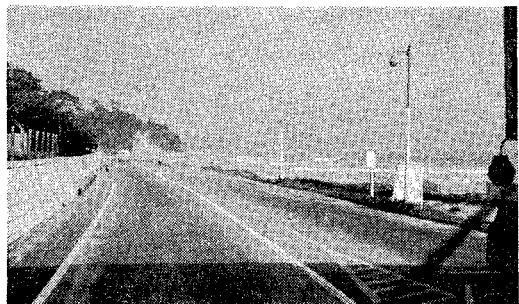


億 4600 万円 (1m あたり 199566 円) の工費を投じたものである。土工期間中 (約 1 年半) に処理した土量は切土 67 万 m³, 盛土 55 万 m³ という大規模なもので、関東ロームと軟弱地盤の処理が、この工事のポイントとなっている。再びバスに乗り東海道の松並木をくぐり江ノ島を一望にする片瀬海岸の小田急ビーチハウスへ

小田急ビーチハウスにて

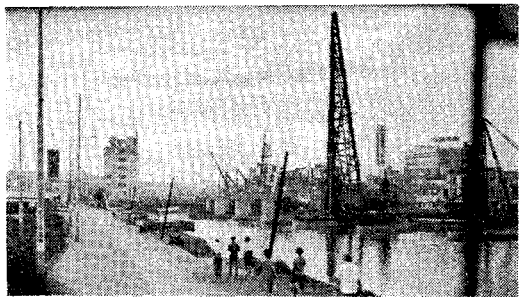


湘 南 道 路



着く。乾いたノドをうるほし、水着姿の河童連をうらやみつつ海岸ぞいに走る湘南道路を鎌倉へ向かう。片瀬東浜より鎌倉材木座まで 5716 m, 巾員 7.5~11.0 m, 2 億 4400 万円で 31 年 5 月開通したドライブ ウェーである。工事々務所前で下車し、湘南道路工事々務所 松山所長の説明を伺った。将来、逗子海岸まであと 3885 m (巾員 7.5 m) の延長を予定しているが、用地問題で行きづまっているとのこと、打開の道を祈りつつ鎌倉市内を抜け鶴岡八幡宮、建長・円覚の両寺を車窓より見て大船をへて帰途につく。予定より 40 分ほど遅れて横浜市内に入り、国鉄根岸線工事の概要を湊中学校講堂において東京幹線工事局 広川桜木町工事区長より説明をうける。会誌 7 月号口絵写真にも紹介したとおり、昨年 4 月着手した桜木町・磯子間 7.7 km の複線電化路線で将来は大船まで延長 (総延長 19 km) の予定とのことである。井筒ならびにコアード杭を併用した基礎工の上に順次橋脚を築造中である。大岡川の河床を利用するため下部工に非常な苦心を払ったほか、桜木町駅付近の混雑ぶりに頭を痛めているらしく、長スパンの PC 桁を夜間作業で架設する予定とのことである。係員の同乗をえて車窓より工事状況を見ながら横浜駅へ向う。38 年度営業開始予定という本路線の完成による市内交通の緩和には大きな期待

根岸線工事状況



が寄せられる。横浜駅で一部参加者をおろし第一京浜国道を一路走り、予定よりやや遅れ 19 時近く東京駅前解散した。

この見学会に御協力賜った日本道路公団本社、東京支社、横浜新道管理事務所、湘南道路工事々務所、国鉄東京幹線工事局桜木町工事区の関係各位に対し紙上より厚く御礼申上げる次第である。

支 部 だ よ り

1. 中部支部

(1) 第 5 回幹事会 (35.8.9, 名古屋城内茶席)

出席者：渡辺幹事長、小寺(代)、高橋(代)、角坂、高田(代)、富永、谷(代)、加藤、宇佐美、粟田(代)、島田、滝淵、榊、松久、土方、倉田、長坂、鈴木、菊田、栗栖の各幹事および荒井評議員。

(2) 第 2 回講習会 (35.8.23, 名古屋近畿ホール)

題目および講師

開会挨拶 橋本支部長

国鉄東海道新幹線について

国鉄名古屋幹線工事局長 仁 杉 巖

名神高速道路について

道路公団名神高速道路第二建設局設計部長 川 村 武 夫

映画 近鉄名古屋線軌間拡中工事記録

解説 近鉄名古屋営業局技術部長 土 方 大 武

聴講者は約 150 名で盛会であった。

2. 関西支部

(1) 関西支部第 23 代 (昭.25 年度) 支部長 和田重

辰氏告別式 関西支部元支部長 和田重辰 (佐伯建設工業取締役会長) 氏は 35 年 6 月 25 日病歿、同 27 日宝塚の自宅で密葬、7 月 4 日大阪阿倍野大斎場で神式により佐伯建設工業株式会社社葬で告別式を営まれた。

(2) 第 1 回見学会 (35.7.12) 第二阪神国道安治川橋梁、国鉄大阪環状線安治川橋梁、大阪市高速鉄道四号線弁天町工事を見学。参加者 326 名 (会費 100 円)。

(3) 沼田学会長関西支部来訪 沼田土木学会会長は、7 月 18 日京都都会館で催された第 2 回世界地震工学会議 (特別講演、閉会式) に出席のため御入洛のついでをもって 7 月 20 日夕、大阪合同庁舎で開催の第 3 回幹事会に臨席の上、支部長以下各幹事と懇談せられた。

(4) 第3回幹事会(35.7.20, 大阪合同庁舎別館2階第一会議室)出席者:近藤支部長, 小西幹事長, 伊藤, 大村, 岡田, 中川, 毛利, 井部, 打田, 宮崎の各幹事。

(5) 土木賞規約制定に関する打合せ(35.7.28, 京都大学楽友会館)出席者:京都大学・小西, 丹羽。大阪大学・伊藤。神戸大学・畑中。大阪市立大学・水野, 毛利。国鉄大阪工務局・打田。大阪市土木局・北村。

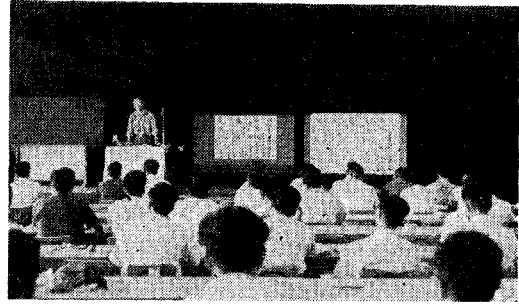
(6) 第4回幹事会(35.8.24, 大阪建設会館)出席者:小西幹事長, 大村, 岡田(代赤井), 北村, 毛利, 中川, 宮崎(代藤村), 伊藤, 打田の各幹事, 永井市立大教授(海岸工学委員会委員)。

3. 西部支部

(1) 夏期講習会(35.8.23, 雲仙ユース・ホテル)参加者139名を得て行なった。

開会の辞	幹事長 藤村 達
挨拶	支部長 田中 俊徳
か	長崎県土木部長 敦枝 木覚
地震工学の趨勢について	九州大学助教授 小坪 清真

西部支部夏期講習会風景



プレキャスト コンクリートの現場試験と施工管理について

運輸省刈田港次長	大塚 友則
鋼杭について	日本鋼管基礎KK工事部長 田内 俊
杭基礎工について	熊本大学教授 園田 頼孝
市房ダム工事について	建設省市房ダム工務事務所長 副 島 健
国鉄熊本地区改良について	国鉄熊本工務区長 柴 垣 寛
島原道路のソイルセメント工法について	道路公園福岡支社 西村 十一
閉会の辞	幹事長 藤村 達

編集 後記

例年がない暑さで, すっかり蒸しあげられ, やっと食欲の秋を迎えました。でも台風の方は, まだまだシーズンで油断がありません。台風と地震, そして変化きわまらない地形地質と, 狭い面積にひしめく人口, これが避けられないわが国の基礎条件ですが, 何とかしてこれらの上に楽園を造り上げたいものです。

今月はまたローマ・オリンピックの月でもあります。選手の元気な活躍は健康のシンボルを見るようです。さて4年後の東京会場となりますと, 本当にこんなことで間に合うのか知らずと, いささか心配になります。手遅れになってからでは, いくら名医や良薬でも施しようがありません。交通施設, 衛生施設, 観光施設, どれ一つ取り上げてみても, 相当な時間と金と思いついた方策とが無ければできない相談です。何時も最後に鞭打たれて哀

れをとどめるのが, われわれ土木技術者であることを思うと他人事ではありません。

技術の切磋琢磨はもちろんのことですが, 自由な意見の交換やPRにも, 自分達のものである学会誌を大いに活用して頂きたいと思います。

編集方針というほどのことではありませんが, 編集諸子が一一致して考えておりますことは, まづ手始めに広告欄を, 見て楽しく, しかも知らず知らずに役立つ知識も得られるものに逐次あらためてゆきたい, また講座としては, 新味と将来性の豊かな問題を広い視野から企画してみたい, また新材料, 新工法などをできるだけ多く紹介しようということ, などです。

おわりに, 以前から原稿を頂戴しながら紙数の関係でなかなか登載できないものがありましたことをお詫び申し上げます。 【相良・記】

会員入退会について(昭和35年8月31日現在)

- | | |
|------------------------------------|--------------------|
| 1. 入会 58名(正45, 学6, 特1C2, 特21, 特34) | 2. 復活 2名(正2) |
| 3. 転格 2名(学より正へ1, 特3より特2へ1) | 4. 退会 11名(正10, 学1) |

会員現在数(昭和35年8月31日現在)

名誉員	賛助員	特1A	特1B	特1C	特2	特3	正員	学生員	増加	合計
33	30	19	21	101	125	125	13538	1164	49	15156

正員	岡本 増成君	札幌市北24条東7の1	昭和35年6月20日逝去	57才
正員	上原 栄人君	八幡市役所土木工事課長	昭和35年4月 逝去	52才

昭和35年9月10日印刷

印刷者 大沼正吉

発行者 末森猛雄

正員会費 年間1200円

昭和35年9月15日発行

印刷所 株式会社技報堂

発行所 社団法人土木学会

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第45巻 第9号

東京都港区赤坂溜池5番地

東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

電話 (351) 5130・5138・5139 番